

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	O673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成 23年 9月 10日	開設年月日	平成 15年 9月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 23年 10月 12日	評価結果決定日	平成 23年 10月 31日

(ユニット名 なごやか1)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鳥海山を目の前に自然豊かな恵まれた地域でモットーである、「ゆっくり、たのしく、なごやかに」を、規制にとらわれない事なく、その人らしくのびやかに、過ごしています。リビングでは、いつも、笑い声が絶えず、歌好きの職員のもとで、歌声もあふれて楽しい雰囲気の中で皆さん過ごされています。自家米や、自家製野菜で新鮮で安心のある食材での美味しい食事の提供で、皆さんの健康も、守られ喜ばれています。代表が看護師である事も、利用者様には、安心できる要因となっており、又、職員全員が、利用者様の心に沿った優しさを大切にし、介護に当たっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な鳥海山と庄内平野に囲まれたホームは、四季折々の自然を感じる事が出来、地域に密着した暮らしが根づいています。経営者は調理師・看護師であるため、毎日の食事にはこだわりの自家米や野菜を使い、利用者の健康管理に動いています。職員同士は日々努力を重ね、利用者に対して家庭的な雰囲気の中、人格を大切にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念として、利用者様が住み慣れた地域でその人らしく生活できる事をテーマとし、目の届くところに掲示して職員全員が理念を共有し、実現に向けて取り組んでいる。	職員全員で作成した理念に沿って、一人ひとりの持てる力を引き出し住み慣れた地域で日々の暮らしを支えている。「ゆっくり、たのしく、なごやかに」を標語に掲げ、その人らしく生活が出来るよう寄り添い見守っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地元住民の方々の、参加を促し、地区行事には、利用者様を参加させていただいている。防災訓練にも、近隣住民の方々にも、参加させていただいている。	今年初めて開催した「認知症ケアサポーター養成講座」には、地域住民の参加もあり、理解を深めている。年間行事では地区の子供達や地元有志による来訪も楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解頂く為、近隣住民の方々や、ボランティアとして訪問頂いた方々へも支援の方法等の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回役場の職員、包括支援センター・家族の方、地域の方々の参加して頂き、テーマをながら、意見交換を行っている。	会議では、利用者状況、事業所報告に加え、意見交換を行っている。町の消防団の参加により、災害時の指導を受け、有意義な話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者へ、現在の利用者様の状態変化、事業所での取り組みを随時伝え、情報の共有に努めている。	日頃から互いに顔の見えるつき合いがあり認知症ケアに理解をもらっている。様々な状況を受け止めてもらい、問題解決にむけて積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	拘束の禁止については理念にも掲げ、拘束のない介護の実践に向けて、勉強会を開催し全職員で意見交換を行っている。	内部研修では身体拘束と安全についての勉強会をしている。職員は利用者の生活行動に配慮し玄関に風鈴を下げる工夫をしたり、さり気ない見守りや一緒について行く等、安全で自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加した職員による発表会を随時開き、全職員が虐待防止の重要性を認識するよう意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に制度に当てはまる方があり、改めて知識を深める為勉強会を開いて、理解を深め活用の必要性、有効性について意識を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して利用して頂く為の十分な説明を心掛け、疑問な点や不安な点について、判り易く説明するように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が何時でも、意見、要望を表現できる環境に気を配り、又運営推進会議にも、参加頂いて、意見交換を行っている。	遠方の家族が多い為、利用者の生活状況や案内等は手紙や電話で知らせ、家族との面会時は、何でも気軽に話せる場の雰囲気作りに留意している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では、勿論だが随時職員が意見を述べ、相談のできる環境づくりに努め迅速な反映を実践している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や努力を認め、各自が向上心を持って働けるよう環境、条件の整備に努めている。又、資格取得や研修会への参加等も、個人の意志を反映できるよう配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については、本人の意志を尊重しながらも、職員間で偏りのないよう配慮している。又研修の内容が全職員で把握できるようにその都度勉強会を開いている。	グループホーム研修会や市町村等の研修への参加で情報の収集を行なっている。職員の段階に応じた受講により、一人ひとりのスキルアップに繋げ、その都度報告して、全職員で閲覧し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	入所部会や各研修会に積極的に参加し、情報交換を行っている。	他の事業所との相互交換研修は行われていないが、事業所独自の取り組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には、個々に担当者を配置し、個別的な訴えや要望にも十分対応できるよう配慮すると共に、全体的に話しやすい温かい雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様や、ご家族様が不安なくサービス利用できるよう、事前に細部にわたる説明と話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要なサービスは何かを把握する為、本人やご家族様は勿論、担当ケアマネや医療機関の意見にも耳を傾け対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしい生活の実現の為日常生活の中でこれまでの生活習慣や興味のあることを把握し、一緒にできる家事やレクに工夫している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に本人の状況を随時伝え、御本人の希望や要望を共に理解しながら、共に支える関係を構築できるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論、御親戚ご友人の訪問時にもゆっくりにくつろげる環境作りに努めている。又ご家族様にも協力頂き、外出の際にはご友人にもお会いできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの生活が主流となっており、皆が楽しめるレクを行ったり、お互いが会話し易いよう楽しい雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合でも、ご家族様からの相談にはいつでも応じらる体制づくりをしており、関係性を維持しながら、支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の要望、訴えを十分に汲み取れるように努め、意志決定の困難な利用者様については、表情やしぐさの観察により表現を読み取り、プランへ反映出来るよう努めている。	少人数の馴染みの関係を活かし、一人ひとりの思いや、希望を把握している。担当職員は関わりの中で表情から真意を推し測り、利用者の視点に立って行動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報書類だけでなく、本人やご家族様、知人の方等から十分にお話しを伺い生活歴、生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを観察し、性格や、気質、考え方の傾向を把握すると共に、今持っている力を理解したうえで支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人やご家族様の要望や意見を汲み取れるように努力しており、要望及びご本人の身体的、精神的な変化があった際には、職員全員で意見を出し合いプランの迅速な見直しにつなげている。	介護計画は担当職員を中心に評価会議を開催している。暮らしの中で見える変化や気づきは、全職員等の意見を参考に統一したケアに繋げ実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録以外にも、利用者様の変化が一目で判るような記録用紙を用い、職員間の意識の共有を図りながら、介護計画にも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流を継続し、地元のボランティア(踊りや三味線)を継続的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望を重視し、いつでもかかりつけ医の適切な医療が受けられる体制がある。又、かかりつけ医には、ご本人の心身の状態がすぐにわかるよう十分な情報を伝えている。	かかりつけ医の受診は、状況の説明が出来る職員の介助で、適切な情報を伝えている。その時々に必要な診療を行ない、結果は申し送りノートで共有し、家族にはその都度報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	総括管理者が看護師である為、情報や気づきを迅速に伝えて適切な処置や看護が行える体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に綿密な情報提供を行い、ご家族様の精神的負担の軽減にも努めサポートしている。又、早期退院が可能となるよう病院側との情報交換を行い、関係強化に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族様の意向を最優先し、重度化した場合や終末期の対応について、職員全員が支援の方針を理解し、一丸となった取り組みに努め活かしている。又医療機関にも理解を求め、協力体制づくりに努めている。	入居の段階で意向を確認し、事業所が出来る範囲の説明を行なっている。急変時の対応は、家族からの協力や医療機関との連携を図り、思いに沿い納得した終末期を迎えられるように、全職員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の学習会を都度行い事例をあげながら、応急処置や急変時の対応を学んでいる。又マニュアルの作成により、全職員への、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害へ対応する為、年2回の避難訓練を行っている。その際には、近隣住民にも参加していただき、協力体制を気付いている。今後は、地元消防団との連携も強化していきたい。	年2回、地域住民と共に身近な物を使って搬送訓練を行ない、11月は夜間想定を予定している。消防団の協力を得て避難経路の確認等をし、東日本大震災以降はマニュアルの見直しをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が利用者様の立場に立ち、その人の誇りやプライバシーを守ることを大切に声掛けや対応に気を配りながら支援している。	「プライバシーを守る」研修会を実施している。日々の変化を見逃す事無く、利用者の気持ちを大切にして自己決定しやすい環境に整え、全職員意識したケアに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、本人の意志表現が可能になるよう言葉掛けや対応に工夫している。又、自己表現が言葉では、難しい人にはその人の表情やしぐさ等非言語的コミュニケーションを大切にプランに反映できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大筋での生活リズムを根底にしなが、本人の希望や日々の体調を考慮し、無理のないゆったりとした生活を送って頂けるよう柔軟な支援を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの洋服や小物を選んでいただき、職員とのコミュニケーションの中で個人個人がおしゃれ出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みのメニューを取り入れ、食事形態も食べやすいように工夫している。又可能な方には、盛り付けや、皿拭き等のお手伝いを頂き職員と一緒に楽しく作業をしている。	自家米や自家製野菜を取り入れたメニューは格別で、食欲を高め合っている。盛り付けや片付け等の手伝いを利用者と共に行ない、同じ食卓を囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記載し、不足気味の場合には、栄養補助食品・飲料を取り入れて、摂取量の確保に配慮している。嚥下機能が低下している人には、ゼリーやトロメリンを使用し誤嚥の防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいを徹底し不足の場合には、介助にて口腔内の清潔に務めている。義歯の使用者には、必要に応じてお預かりし、消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人々々の排泄リズムを考慮し、できる限り失禁のないよう声かけ誘導を行っている。又、個人の身体機能を配慮し、居室内のポータブルトイレの設置、その場所にも考慮している。	個別チェック表から排泄習慣を把握し、中にはリハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。また夜間時、声かけ等でトイレ誘導を心がけ、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れ水分の摂取量も不足ならないよう配慮している。又リズム体操煮より、腸の働きを良くする工夫も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日程にこだわらず、本人の希望や体調に考慮して、入浴が楽しみの一つとなれるよう工夫している。希望に応じシャワー浴や足浴なども取り入れている。	体調に気を配り希望の入浴支援に努めている。一人で入浴する方は、ゆっくり温まり安眠に繋げ、入りたくない方には無理強いすることなく足浴を促したり、日を改める等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調を考慮し、日中でも居室で休憩できる環境を作っている。夜間は個人の睡眠パターンを把握しゆっくり安眠できるよう灯りの調整や、巡視を徹底している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの処方薬を理解し全職員が共通の認識を得られるよう情報の共有を図っている。薬袋の色分けの徹底服薬時のお互いの声かけにより誤薬のないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人のADLに配慮しながら、負担にない家事(皿拭き・洗濯物たたみ・配膳等)の役割を持っていただいている。又レクに関しては希望に応じた内容により、楽しい雰囲気づくりに務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、部落内の散歩を支援して、季節に応じた外出(お花見やドライブ等)行っている。又ご家族様の協力を得ながら、自宅への外出も支援している。	天候状況や体調を考えて散歩や買い物などに出掛けている。楽しみの一つに蕎麦畑の花鑑賞等があり、利用者に合わせて外出をしている。毎月1回自宅に戻り、ゆったり過ごす方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の可能な方には、個人で金銭を持っていただいている。職員付添いで買い物に出かける場合には、立替払いであっても、本人が支払えるような方法等で支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望に応じて、電話での会話が可能なような環境を作っている。手紙に関しては、あて名書き、代筆、投函を行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、開放的で明るい雰囲気のある空間づくりをしている。又リビングや廊下には、季節感が感じられる置物飾りを展示し、照明や室温も都度調整しながら快適に過ごしていただけるように配慮している。	利用者の希望を取り入れた配置で、軽体操や風船バレー、歌を歌ったりと過ごしやすい空間になっている。また、室内の温度差に気を配り、光の眩しさに敏感な利用者にも配慮し心地良く過ごせる取り組みをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では、ソファや大小の一人掛け用椅子など個人の選択肢を増やし、本人の居場所づくりに配慮している。車椅子の場合でもお互いがそれぞれ姿が見えるよう、孤立しない配置に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者には、自宅での使い慣れた家具や寝具を持参いただいている。本人の思い出のある写真や飾りなども、すべて受け入れている。入居の際には本人やご家族様と協議し希望に応じた配置にも配慮している。	自宅と変わらない生活を心がけて馴染みの鏡台等小物を持ち込んでもらい、穏やかに安全に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札や飾りを掛けトイレや風呂場には目印となる表示や暖簾を使用している。本人のADLに応じ居室内にポータブルトイレも設置している。廊下やトイレ、脱衣所。浴室には手すりの設置を徹底している。		